

安藤次男 教授 略歴・主要著作目録

略 歴

- 1944年 1月17日 茨城県に生まれる
1962年 3月 神奈川県立横浜翠嵐高等学校卒業
1963年 4月 京都大学法学部法律学科入学
1967年 3月 同上卒業
1967年 4月 京都大学大学院法学研究科修士課程入学
1969年 3月 同上終了
1969年 4月 京都大学大学院法学研究科博士課程入学
1971年 3月 同上退学

職 歴

- 1971年 4月 立命館大学法学部 助教授
1978年 4月 立命館大学法学部 教授
1989年 4月 立命館大学国際関係学部 教授
(現在に至る)

業 績 一 覧

著書

1. 『戦後世界政治の構造』(共著), 法律文化社, 1972年10月
2. 『現代政治学』(共著), 法律文化社, 1977年5月
3. 『アメリカ自由主義とニューディール — 1940年代におけるリベラル派の分裂と再編』(単著), 法律文化社, 1990年6月
4. 『人間の安全保障 — 世界危機への挑戦』(共編著), 東信堂, 2004年11月

5. 『ニューフロンティア国際関係』（共著），東信堂，2006年3月

学術論文

1. 「善隣政策の形成に関する一考察」, 『法学論叢』 京都大学法学会, 1971年6月
2. 「ニューディール期の政治（一）David Horowitz, ed., Corporations and the Cold War, New York, 1969をめぐって」, 『立命館法学』, 1972年10月
3. 「戦後アメリカの対外政策とヘンリーA・ウォーレスの外交論」, 『立命館法学』, 1974年10月
4. 「冷戦と一九四八年大統領選挙 — アメリカ進歩党をめぐって」, 『立命館法学』, 1975年10月
5. 「冷戦と政党政治 — 一九五二年アメリカ大統領選挙をめぐって」, 『立命館法学』, 1979年1月
6. 「ニューディール期の政治（二）メアリー・S・マコーリフのニュー・リベラリズム規定をめぐって」, 『立命館法学』, 1979年11月
7. 「ニューディール期の政治（三）ヘンリーA・ウォーレスのニュー・フロンティア論」, 『立命館法学』, 1980年9月
8. 「ニューディール連合の危機 — 一九四四年大統領選挙におけるトルーマンとウォーレス」, 『立命館法学』, 1980年10月
9. 「ニューディール改革路線の転換と対外政策 — 一九四四年大統領選挙をめぐって」, 『立命館法学』, 1982年12月
10. 「ニューディール改革と共和党革新派」, 『立命館法学』, 1983年3月
11. 「現代アメリカの国家論」, 法律文化社, 1983年
12. 「冷戦政策と国内政治」, ミネルヴァ書房, 1983年
13. 「アメリカリベラル派の一断面 — ADAの創設に関わって」, 『立命館法学』, 1985年
14. 「アメリカ進歩党と朝鮮戦争 — ヘンリー・A・ウォーレスの転換」, 『立命館法学』, 1986年
15. 「対外的危機と国内改革 — 一九四〇年大統領選挙をめぐって」, 『立命館法学』, 1987年
16. 「スチーブンソンの挑戦 — アメリカ1956年選挙をめぐって」, 『立命館国際研究』, 1988年10月
17. 「ニューディール反対派の台頭と政党再編 — 1936年選挙をめぐって」, 『立命館国際研究』, 1989年3月
18. 「アメリカ政治のなかの日本 — 日米間の政治・軍事対立をめぐって」, 法律文化社, 1989年11月
19. 「アメリカ自由主義の一断面 — 1960年大統領選挙におけるリベラル派のケネディ評価をめぐって」, 『立命館国際研究』, 1989年11月

- ぐって」, 『立命館国際研究』, 1991年3月
20. 「リベラルと保守の用語法」, 『立命館国際研究』, 1993年3月
 21. 「冷戦後のアメリカ新世界戦略」, 大月書店, 1993年8月
 22. 「冷戦の発生とアメリカ政治」, 『立命館国際研究』, 1994年3月
 23. 「アメリカ孤立主義の転換と一九三九年中立法」, 『立命館法学』, 1996年6月
 24. 「アメリカの選択—冷戦起源論と関わって」, 『立命館国際研究』, 1997年12月
 25. 「大統領政治と1957年公民権法」, 『立命館国際研究』, 1998年3月
 26. 「1956年公民権法案とアメリカの政党政治」, 『立命館国際研究』, 1998年12月
 27. 「現代アメリカ政治の変容とリバータリアン党」, 『立命館国際研究』, 1999年3月
 28. 「1965年投票権法とアメリカ大統領政治」, 『立命館国際研究』, 2000年3月
 29. 「1964年公民権法と大統領政治」, 『立命館国際研究』, 2001年3月
 30. 「第2次大戦前におけるアメリカ孤立主義と宥和政策」, 『立命館国際研究』, 2001年6月
 31. 「ケネディと1963年公民権法案」, 『立命館国際研究』, 2001年12月
 32. 「1965年投票権法の意味 — アメリカ1960年代論との関わりで」, 『立命館国際研究』, 2002年6月
 33. 「宥和と抑止 — 歴史学としての宥和研究から政治学としての宥和研究へ」, 『立命館国際研究』, 2003年3月
 34. 「国連安保理事会5大国制の起源に関わって — アメリカから見た中国とフランス」, 『立命館国際研究』, 2005年3月
 35. 「国際政治の国内的効果 — アメリカにおける冷戦公民権をめぐる」, 『立命館国際研究』, 2006年3月
 36. 「異端の副大統領ヘンリー・A・ウォーレス—ポスト冷戦時代の視点から」, 『立命館国際研究』, 2007年3月

翻訳

1. ラングドン『戦後の日本外交』(共同訳), ミネルヴァ書房, 1976年
2. O. L. ホルスティ「米国と体系変化」(単独訳), 『国際政治』日本国際政治学会, 1982年
3. アーサー・ガブション『アフリカ—東西の戦場』(共同訳), 新評論, 1986年2月
4. マーティン・ホワイト『国際理論—三つの伝統』(共同訳), 日本経済評論社, 2007年7月

書評

1. “Richard J. Walton, Henry A. Wallace, Harry Truman and the Cold War, 1976”, 『立命館法学』, 1977年

2. 武者小路公秀『国際政治を見る眼』岩波新書、『日本の科学者』日本科学者会議，1978年2月
3. 田北亮介『現代アメリカ外交』日本評論社、『国際政治』日本国際政治学会，1979年10月
4. “Alonzo L. Hamby, Liberalism and Its Challengers - F.D.R. to Reagan, 1985”，『立命館法学』，1985年
5. 油井大三郎『戦後世界秩序の形成 — アメリカ資本主義と東地中海地域1944-1947』東大出版会、『国際政治』日本国際政治学会，1986年3月

学界回顧

1. 「学界展望1978年」，『年報政治学1979年』日本政治学会，1979年
2. 「学界展望1979年」，『年報政治学1980年』日本政治学会，1980年
3. 「学界回顧」，『国際政治』日本国際政治学会，1992年11月

その他

1. 『法学辞典』（共著），日本評論社，1991年6月
2. 「アメリカの学生青年運動 — 対抗文化の時代から新保守主義へ，一九六〇～一九七〇年代へ」（単著），『立命館百年史紀要』，1999年1月

所 属 学 会

日本国際政治学会

日本政治学会

日本アメリカ学会

日本平和学会